

### 1.用意するもの

- ア) 段ボール(2重構造) 2~3箱
- イ) ガムテープ(紙製)
- ウ) 新聞紙 2日分くらい
- エ) ショベル
- オ) 台座(発泡ブロック等) 2~5個



2重構造の段ボールの断面図



### 2.あると便利なもの

- ア) 促進剤(米ぬか・廃食油)~投入物の分解促進・温度上昇
- イ) 温度計~基材の温度管理
- ウ) 着古しのシャツ~コンポストのフタとして使用する(通気性向上、隙間を無くし虫の侵入を防ぐ)
- エ) 量り~投入する生ごみの計量
- オ) 破損防止ネット(目の間隔が1cm程度の樹脂製の網)~攪拌時の段ボール内壁や底面の破損防止
- カ) BBQ 網~コンポストの下(外側)に敷くことにより、底の型崩れを防ぐ(移動の際にも便利)
- キ) 厚手のビニール袋~虫が湧いた場合の天日干しに使用

イ)



ウ)



エ)



オ)



※ 破損防止ネットの効果について  
攪拌時に内部を傷つけることがなくなるため、  
同一の段ボールをより長期間使用することができます。

使用前

使用后



### 3.組み立て

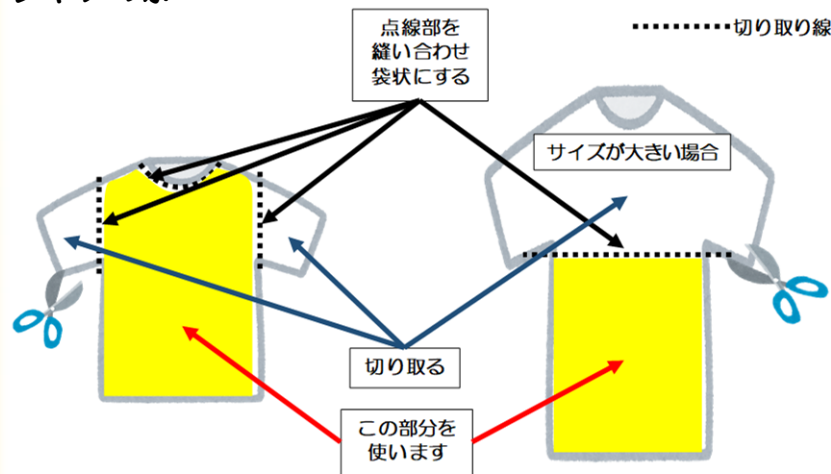
- ア) つなぎ目をしっかりふさぐ(持ち手部分も)～隙間があると虫が侵入します
- イ) 底部に補強のため段ボールを敷きます
- ウ) 新聞紙(2日分程度)を敷きます
- エ) 破損防止ネットをセットします(なくても可)
- オ) フタをかぶせます(シャツ or 段ボール、併用可)
- カ) 設置します

### ※ 設置のポイント

- ・生ごみの分解により多量の蒸気がでることから、床や壁から5cm以上は離して設置しましょう
- ・雨の当たらないところ
- ・風通しの良いところ
- ・保温のため毛布を掛けるのも効果的



### シャツの加工



#### 4. 基材の種類とそれぞれの特徴

ア) 腐葉土:米ぬか=5:3

市販の腐葉土(14リットル)=3.85kg

米ぬか=2.3kg

計量=体重計など、あるいは牛乳パックなどで5:3の容積になるよう計量

イ) ピートモス:もみ殻燻炭=3:2

#### ※ 水分調整のポイント

基材がパサパサしている場合は500ml程度の水を投入し、よくかき混ぜてください。

(段ボールに直接水がかからないように注意)

また、投入する生ごみからも水分が放出されることから、神経質にならなくても結構です。

ア)



ア) 腐葉土:米ぬかの特徴

投入直後から温度上昇・カビの発生がみられる

イ)



イ) ピートモス:もみ殻燻炭の特徴

温度上昇・カビの発生まで1週間程度かかる

## 5. 毎日のお世話

- ア) しっかりかき混ぜる(中に空気を含ませる)
- イ) 中心にくぼみを作る
- ウ) くぼみに生ごみを投入する
- エ) 基材をかぶせる(山を作るように)
- オ) フタをする

## ※ 分解を早めるコツ

なるべく小さくすると分解しやすくなる  
臭いの出やすいものは湯どおしてから投入する

ア)



イ)



ウ)



エ)



## 6. 分解進捗のサイン

- ア) カビの発生
- イ) 発熱による水蒸気の発生

ア)



イ)



## 7. 虫の対処法

- ア) 廃食油や米ぬかを投入し基材の温度を上昇させる
- イ) ビニール袋にて密閉(窒息させる)するとともに、天日干しにより基材の温度を上昇させる。

イ)



※ ポイント～予防に勝る防御なし

【段ボールの隙間をしっかりと塞ぐ】

➡ 隙間から虫が侵入することがあります。

【開放時間を短く】

➡ 生ごみの投入時やかき混ぜているときに虫が侵入することがあります。

【生ごみを放置しない】

➡ 台所に生ごみを放置している間に卵を産み付けられることがあります。

## 8. 引っ越し

箱の型崩れや損傷が目立ってきたら交換しましょう



9. 分解状況

ア) 分解しにくいもの

根菜類の皮・骨・種子など

イ) 分解に時間がかかるもの

ピスタチオの殻・栗の皮・みかんの皮

ウ) 細かくすることによって分解しやすくなるもの

果物の皮、卵の殻

たまねぎの皮

ア)



鳥の骨



梅干しの種



ピスタチオの殻

イ)



みかんの皮



ブドウの茎



メロンの皮

ウ)



卵の殻



## 10. 熟成について

### ア) 熟成のタイミング

生ごみを投入してから3か月程度  
分解速度が遅くなってきた頃  
アンモニア臭が消えなくなってきた頃

### イ) 熟成の期間

最後の投入物を分解させるため少なくとも1か月  
(3か月程度が理想)

### ウ) 熟成方法

3日に一回程度の頻度で攪拌する  
乾燥していたら少量の水を加える



### 熟成の目的

生ごみは、微生物による分解により、いくつかの段階を経て最終的に養分(チッ素やリン酸)になりますが、養分になるまでの途中段階(未完熟の堆肥)の成分には、植物の成長にとって障害となる成分が含まれるため。